

東浦保育園(令和5年4月現在)

全体的な計画

保育理念	一人一人の子どもの最善の利益を第一に考え、未来に向かって生きる力を育みます。 ・家庭や地域社会と連携を図り、子どもの福祉を積極的に増進するよう努めます。		保育方針	一人一人の気持ちを温かく受け止めながら、心身ともに健やかに育てます。 ・地域の子育てを支援します。		保育目標	元気に遊べる子 ・思いやりのある子 ・最後までやりとげる子						
保育所保育に関する基本原則						養護に関する基本的な事項	保育の計画と評価						
保育所の役割・保育の目標		保育の方法・保育の環境		社会的責任									
・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、健全な心身の発達を図る。 ・保育に関する専門性を有する職員が、養護及び教育を一体的に行う。保護者支援及び地域の子育て支援等を行う。		・健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境(人・物・場)を整え、一人一人の発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育する。 ・保護者を理解し適切に援助する。		・子どもの人権に配慮し、一人一人の人格を尊重し保育を行う。 ・地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切に説明する。 ・個人情報を適切に取り扱う。 ・保護者の苦情・提言の解決を図る。		養護を基盤としながら、養護と教育を一体的に行い、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育を展開する。 ・子どもの欲求や思い、願いを敏感に察知し、状況や経緯をとらえながら、受容的・応答的に関わり、子どもが安心感や信頼感を得る保育を行う。		・一日の生活のリズムや在園時間が異なる子どもが共に過ごすことを踏まえ、子どもの発達過程等に配慮した計画をたてる。 ・保育の目標を達成するため計画をたて、それに基づき保育を実践し、記録等を通して振り返り、評価した結果を次の計画の作成に生かすという循環的な過程を通して保育を行う。 ・保育士等の自己評価、保育所の自己評価を行い、公表し、保育内容の改善を図る。					
年齢別保育目標	0歳児	生理的・心理的欲求を満たし心地よく生活する			3歳児	身近な仲間や自然などの環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する							
	1歳児	探索行動が盛んになり、行動範囲が広がる			4歳児	仲間との信頼感を深め、感情表現が豊かになる							
	2歳児	象徴機能や想像力を広げながら集団活動に参加する			5歳児	集団生活の中で自律的、意欲的に活動し、体験を積み重ねる							
保育の内容													
年齢	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		
養護	生命の保持	一人一人の子どもの生活リズムを重視し、生理的欲求を十分に満たす。 ・家庭と連携を密にとりながら、一人一人の心身の発育や発達状況を把握し適切に対応する。		生命の保持 一人一人の健康状態を把握し、保健的で安全な環境を作る。 ・家庭と協力しながら、適切な生活リズムを整えていく。		一人一人の健康状態や発達状況を把握し、快適に過ごせるようにする。 ・安全で快適な生活環境の中で、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる。		健康的な生活習慣が身に付くようにする		運動と休息の適切なバランスや調和を図りながら、基本的な生活リズムが整うようにする。		健康で安全な生活に必要な習慣を身に付け、自ら進んで行動できるようにする。	
	情緒の安定	子どもの気持ちを表現する喃語や身振りなどに、やさしく繰り返し対応する。		情緒の安定 ・自我の芽生えを喜び、受け止めてもらうことにより、自分の感情を表出したり抑えたりして、気持ちを立て直していく心の力が育つよう援助する。		様々な自己主張を受け止め、一人一人の気持ちに共感したり仲立ちとなったりしながら、自我の育ちを援助する。		一人一人の気持ちや考えを受け止め、自我の形成と共に主体的な行動や探索意欲が高められるようにする。		自己肯定感を育み、他者を受容する気持ちを育てる。		仲間との葛藤を体験しながら互いを認め合い、自らをも肯定する気持ちが促されるように、一人一人の子どもの育ちを認める。	
教育	身体的発達の視点	○健やかに伸び伸びと育つ ・快適な環境、清潔な心地よさを知る。 ・発育に応じて、寝返り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩き、歩くなど身体を動かすことの楽しさを体験する。 ・様々な食品に慣れ、進んで食べようとする気持ちが育つ。		健康 ○歩行の確立による行動範囲の拡大 ・歩行が完成し探索活動を楽しむ。 ・身の回りの簡単なことを保育士等と一緒にしようとする気持ちが芽生える。		○排泄の確立 ○運動、指先の機能の発達 ・全身運動を取り入れた遊びや、手や指を使った遊びを楽しむ。 ・身の回りのことを自分でしようとする		○意欲的な活動 ○基本的な生活習慣の確立 ・道具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・生活の流れが分かり自分でできることは自分でしようとする。		○健康への関心 ○体全体の協応動作 ・様々な遊具や活動、動きを組み合わせた遊び等に挑戦して遊ぶ。 ・自分でできることに喜びをもちながら、基本的な習慣を次第に身につける。		○健康増進とさらなる挑戦への意欲 ・運動遊びに意欲をもち、目標を持って取り組む。 ・自分でできることの範囲を広げながら、生活に必要な基本的な習慣を身に付け、すすんで行動する。	
	社会的発達の視点	○身近な人と気持ちが通じ合う・特定の保育士等との継続的な関わりを通して愛着関係を育む。 ・保育士等との応答的なやり取りの中で、身体の動き、表情・発声等により、気持ちを通わせようとする。 ・身近な人との関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。		人間関係 ○周囲の人への興味・関心の広がり ・保育士等の応答的な関わりの中で、安心感を持って過ごす。 ・保育士等や友達に関心をもち、自ら関わろうとする。		○自己主張の表出 ○友達との関わりが増大 ・生活や遊びの中で、順番や交代等の約束があることを知る。 ・保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。		○道徳性の芽生えと並行遊びの充実 ・友達と共に過ごすことの喜びや楽しさを感じながら、思いを伝え合って遊ぼうとする。 ・よいことや悪いことがあることに気づき、きまりがあることを知る。		○仲間との深いつながり ・自分の思いを伝えたり相手の思いに気づいたりしながら、友達と積極的に関わり、喜びや悲しみを共感し合う。 ・友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。		○社会性の確立と自立心の育成 ・自己主張したり相手の意見を取り入れたりしながら共通の目的に向かって協力し、やり遂げようとする。 ・地域の人や両親、祖父母等、自分の生活に関係の深い人達に親しみを持って関わる。	
	精神的発達の視点	○身近なものとの関わり感性が育つ・身の回りの物に親しみ、様々なものに興味や関心を持つ。 ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。		言語 ○始語・言葉の獲得 ・保育士等などの応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。 ・絵本や紙芝居に親しみ、簡単な言葉を繰り返して遊ぶ。		○言葉のやり取りの楽しさ ・保育士等を仲立ちとして生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・絵本や物語等に親しみとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。		○言葉の美しさ、楽しさへの気づき ○生活の中での必要な言葉の理解 ・生活の中で必要な言葉がわかり、使う。 ・言葉の獲得を通じ、知的好奇心や関心が高まり「なぜ」「どうして」などの質問のやり取りを楽しむ。		○伝える力・聞く力の獲得 ・自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりして会話を楽しむ。 ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。		○文字や数字の獲得による遊びの発展 ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。 ・共通の目的に向かって友達と話し合い、自分の思いを伝え、相手の話を聞くことへの意欲や態度を身につける。	
	環境	○好奇心の高まり ・好きな玩具や遊具で様々な遊びを楽しむ。 ・身近な自然や生き物に興味や関心を持ち、探索して遊ぶ。		環境 ○自然現象への積極的な関わり ・身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊び、みたく遊びを楽しむ。 ・身の回りの小動物や植物、自然等に触れ、興味や関心をもって探索や模倣等をして遊ぶ。		○身近な環境への積極的な関わり ・生活の中で様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 ・様々な自然現象にふれ、興味や関心をもって自分から関わろうとする。		○社会現象への関心の高まり ・身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 ・自然などの身近な現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。		○社会・自然現象へのさらなる関心と生活への取り入れ ・日常生活の中で、数量や図形、簡単な標識や文字などに興味や関心をもつ。 ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。			
表現	○いろいろな素材に触れる楽しさ ・水、砂、土、紙など様々な素材に触れて楽しむ。 ・指さしや身振り・片言等で自発的に意思を伝えようとする。		象徴機能の発達とイメージの膨らみ ・保育士等からの話や、生活や遊びの中で出来事を通して、イメージを豊かにする。 ・生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する		○自由な表現と豊かな感性の育ち ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり、作ったりなどする。		○豊かな感性による表現 ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。		○ダイナミックな表現 ○感動の共有 ・描いたり、作ったりすることを楽しみながら、遊びに使ったり、飾ったりする。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。				

食育の推進	・生活と遊びの中で、食に関わる様々な体験を積み重ね、食べることを楽しみ健康な生活の基本としての、「食を営む力」の基礎を育む。 (年間食育計画別紙)
健康支援	子どもの健康状態並びに発育および発達状態を把握し健康の保持及び増進に努める。 ・保護者や嘱託医、関係機関と連携し、感染症やアレルギー疾患等について、適切な対応を図る。 (年間保健計画別紙)
環境・衛生管理	・清潔で安全な環境を整え、適切な状態を保持する。 ・保育中の事故防止及び安全対策に努め、定期的な点検や訓練を行うとともに、改善、情報の共有を図り、場面に応じた適切な対応をする。
安全対策・事故防止・災害への備え	施設・設備等の安全を確保し、災害発生時の対応体制の整備を図り、地域の関係機関等と連携を持ちながら避難への備えを行う。 (消防計画・避難消火訓練年間計画・各種マニュアル別紙)
子育て支援	・保護者の子育てに関する悩み、希望、気持ち等を受け止め、相手の立場に立って考え、支援する。(傾聴・共感・受容に基づく相談援助) ・地域の保護者等に対して、保育所保育の専門性を生かした子育て支援を行う。
小学校との接続・連携	・保育において育まれた資質・能力が小学校教育に円滑につながるよう、小学校との意見交換や合同の研究の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図る。 (宇都宮市保育所児童保育要録の送付・小学校との情報交換・幼保小連携事業等)
職員の資質向上 (研修・自己評価)	・質の高い保育を展開するために、職員の資質の向上及び職員全体の専門性の向上を図る。 ・自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育所内外の研修等を通じて、必要な知識、技術の習得、及び向上に努める。
特徴的な保育	・障がいや発達上の課題が見られる子どもに対し、保護者や関係機関との連携を取りながら、良質かつ適切な支援を行う。(個別支援計画・個別指導計画・経過記録別紙) ・地域の人々(地域の親子・小学校・学童・高齢者等)と、世代を越えて交流・連携し合う。 ・異年齢児保育・延長保育・園庭開放等
体づくり	・適切に構成された環境の下、自発的に様々な遊びを体験する中で、多様な動きを経験し、生涯にわたって心身共に健康的に生きるための基盤を培うよう努める。 ・一人一人の発達の特性に応じた遊びを中心に展開することで、無理なく多様な動きが身につくようにする。 (年間運動計画別紙)
幼児教育を行う施設として共有すべき事項	・生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育の目標を踏まえ、保育活動を展開し、保育所保育において育みたい資質・能力を育む。 ・保育士等は、子どもが発達していく姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、指導を行う際に考慮する。